

# 富士山静岡空港ビジネスジェット・スカイベース戦略 概要版

## 戦略策定の経緯

### ビジネスジェットを取り巻く環境

- ・ 旺盛なインバウンド需要や世界のビジネスジェット市場の成長を背景に、日本のビジネスジェット発着回数も増加している。
- ・ 静岡空港は、ビジネスジェットとヘリコプター事業者が拠点を置き事業展開しており、ポテンシャルの発揮が期待される。
- ・ 静岡県未来創造会議が本県を牽引・創造する取組として、ビジネスジェット等の誘致強化を知事へ提言した。

### ねらい

- ・ 県は民間活力の導入により、空港西側県有地を活用し、**ビジネスジェットの拠点化を目指すことで、空港の機能強化及び富裕層誘客を通じた本県観光の価値向上につなげる。**

## 目指す姿

海外からの観光・ビジネス利用の増大やビジネスジェット関連事業の機能強化による、**国内外からビジネスジェットが集積する世界有数のビジネスジェットの拠点**

### 拠点化イメージ

▶▶ 年間発着回数8,000回・駐機数100機



## 空港を取り巻く現状・課題

### 発着回数・利用状況

- ・ 国内線・国際線の発着回数：全国 7 位
- ・ <2024年発着回数：国内605回 国際4回>
- ・ 利用の 9 割は国内線の機体輸送や飛行訓練など

### 空港の運用・専用施設

- ・ 運用時間の調整が困難
- ・ 駐機日数・受入容量は他空港と遜色なし
- ・ 受入施設は機能向上の余地有り

### 空港受入体制・二次交通

- ・ 国際線利用客の空港内秘匿性が未確保
- ・ 高級ハイヤー配車事業者の未配備
- ・ ヘリコプター事業者の空港配備
- ・ 次世代エアモビリティ導入計画が進行中

### 観光・ビジネスによる利用

- ・ 富裕層向けの商品の不足
- ・ 観光地の受入環境の不足
- ・ 質の高い移動手段の確保が必要
- ・ 県内企業のビジネス需要は極めて限定的

### 空港西側県有地の活用

民間活力の導入を進める4ゾーンのうち、エアフロントゾーンはビジネスジェットの拠点化を目指す



駐機事業



運航事業

### 戦略の柱

目指す姿の実現に向けて、**4つの戦略の柱**を掲げて取り組む

4つの柱	拠点化イメージ
① 観光利用	・ 富裕層観光の空の拠点
② ビジネス利用	・ 国際会議や国際イベント等を含むビジネス利用の空の拠点
③ ビジネスジェット関連産業の振興	・ 運航、MRO、FBO、駐機等の関連産業の集積 ・ eVTOLの運航拠点
④ 空港西側エアフロントゾーンの活用	・ 専用格納庫、駐機スペース、ホテル等への活用

MRO：航空機の修繕・整備事業

FBO：運航支援事業（空港を拠点に一般航空向けに関連サービスを行う事業）